

第十九表 頭形示數比較 (合)

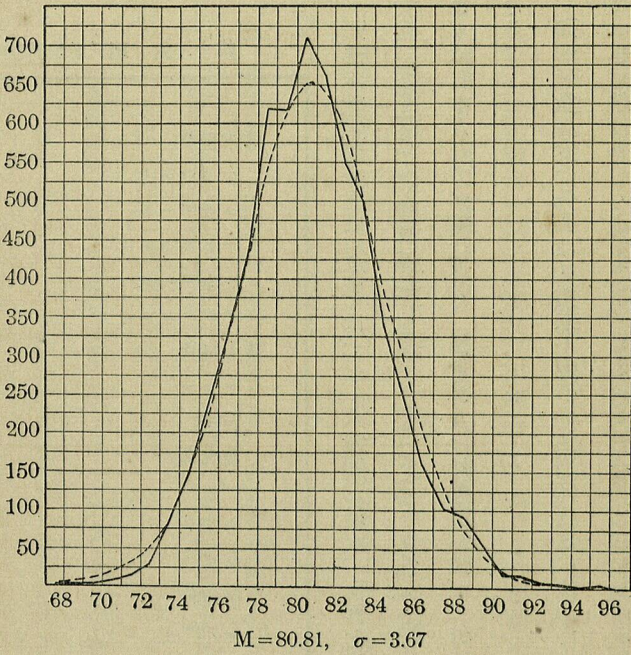
北方種族	
コリヤーク	80.3
ユカギール	80.4
オスチヤーク	80.7
ツングース	80.8
アジャエスキモー	80.8
南方種族	
ロロー	80.2
苗子	80.2
北支那人	80.4
アオ	80.4
チブラ	80.5
シャン	80.5
南緬甸	80.5
レプチャ	80.5
儂(ノン)	80.5
客家	80.6
苗子	80.6
北緬甸	80.6
ミリ	80.8
カンブー	81.0
東部西藏	81.0
タイ	81.1
南洋種族	
カヤン	80.2
バタ	80.3
ピラアン(ミンダナオ)	80.4
プヌマ(生蕃)	80.9
プナン(ホルネオ)	81.3

頭形示數頻度分布は男性では七七一八四間が最大、女性七八一八五間が最大である。標準偏差は男性 3.67 ± 0.02 、女性 3.70 ± 0.04 、變異係數は男性 4.54 ± 0.03 、女性 4.52 ± 0.05 である。之をアイヌ及び朝鮮人に比較すると前者よりは日本人の方が變化多く、後者よりは純粹度が強い。男性頭形示數の頻度分布圖及び理想曲線は第三圖の如くなる。

頭形示數頻度の分布は又第二十表の分類型頻度表に依つて大略知ることが出来る。即ち男性は短頭形最大、中頭之に次ぎ、他は著しく小である。然るに女性に於ては中頭の次に長頭型來り、短頭は第三位に落ち頻度比較的小、即ち長頭に傾く程度男性より寧ろ大なるも、中頭の頻度は男性に比して甚だ大であるから、爲に平均値に於て男性を凌ぐ

第三圖 日本人(合) 頭形示數分布曲線 (松村)

日本人の人類學



ことになる。

之を周圍民族の成績と比較すると第二十一表の如くなる。

第二十表 日本人頭形各型頻度

分類型 (ガルソン)	合		♀	
	例数	%	例数	%
超長頭 (ultradolichocephal) 64.9 以下	—	—	—	—
過長頭 (hyperdolichocephal) 65.0-69.9	5	0.8	1	0.05
長頭 (dolichocephal) 70.0-74.9	287	4.78	37	1.85
中頭 (mesocephal) 75.0-79.9	2235	37.25	555	27.75
短頭 (brachycephal) 80.0-84.9	2750	45.83	1020	51.00
過短頭 (hyperbrachycephal) 85.0-89.9	658	10.97	341	17.05
超短頭 (ultrabrachycephal) 90.0-以上	65	1.08	46	2.30
	6000	100.0	2000	100.0

第二十一表 頭形各型頻度比較

頭型	合						男					
	日本人		アイヌ		朝鮮人		日本人		アイヌ		朝鮮人	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
過長頭	5	0.8	—	—	—	—	1	0.05	—	—	—	—
長頭	287	4.78	21	22.11	18	3.27	37	1.85	8	11.27	2	1.67
中頭	2235	37.25	56	58.95	137	24.82	555	27.75	41	57.75	22	18.33
短頭	2750	45.83	18	18.95	203	36.78	1020	51.00	22	30.99	53	44.17
過短頭	658	10.97	—	—	138	25.00	341	17.05	—	—	36	30.00
超短頭	65	1.08	—	—	56	10.14	49	2.30	—	—	7	5.83
合計	6000	100.0	95	100.0	552	100.0	2000	100.0	71	100.0	120	100.0

日本人體の解剖

上表に依れば朝鮮人は日本人に比し男女共に短頭に傾くもの稍、多く、之に反してアイヌは長頭に近づかんとする傾向が比較的強い。

頭形の地方差 松村氏材料に依り、男性頭形示數平均値大なる地方を國別に順次配列せば次の如くなる。

- (一) 山城、(二) 伊賀、(三) 近江、(四) 薩摩、(五) 和泉、(六) 丹波、(七) 大隅、(八) 大和、(九) 飛騨、(一〇) 美濃、(一一) 周防、(一二) 美作、(一三) 河内、(一四) 尾張、(一五) 伊勢……

次に示數小なる方より配列せば、

- (七三) 隱岐、(七二) 伯耆、(七〇) 岩城、(六九) 下總、(六八) 讃岐、(六七) 筑前、(六六) 越中、(六五) 但馬、(六四) 上野、(六三) 陸前、(六二) 若狹、(六一) 筑後、(六〇) 因幡、(五九) 駿河、(五八) 伊豫……

となり爾餘の諸國はこの中間に入る。而して示數最大なる山城は八三・三四、最小なる隱岐は七六・六一である。

右に依れば日本人男性頭形は廣頭形の中心二つあり、一は近畿地方、一は薩隅である。又比較的長頭に傾ける地方も亦山陰北九州を一中心とするものと、關東東北を一中心とするものとの二系があるらしい。女性

頭形に於ても大略同様の事が云へる。

之を身長の地方別の成績と総合せば、少くとも次の結論が可能である。即ち薩隅を中心とする南方には短頭短身に傾く一群、近畿を中心として短頭長身に傾く一群、關東、東北には長頭短身に傾く一群、山陰、北九州には長頭長身に傾く一群がある。なほ東北端に長身にして比較的長頭に傾く一群があるかと思へる。此事實が何を語るかは興味ある問題であるが、他日の考察に委すことにする。年齢、階級、時代等に依る頭形の變化に就ては省略する。犯罪者の頭形に就ても調査があるが略す。

五 外 鼻

日本人外鼻形態に就ては大杉氏の詳細なる研究がある。材料男性成人三二、女性同二〇人。

一 鼻根高 兩眼内眦を通過する水平面上最前鼻點と兩内眦間直線との距離平均、男一二・〇糎、女九・六糎、之が内眦幅に對する比、男三五・六、女二九・七、即ち男性は絶對的にも、比較的にも女性に比して鼻根が高い。

二 鼻底方向 地平に對し成人男子平均三七・八度、女子四〇・二度、即ち女性は男性に比し上向の程度が強い。

三 外徑 鼻高、鼻幅、鼻長、鼻深の四徑の男女に於ける成績は

第二十二表 日本人外鼻諸徑 (糎)

		♂(32)	♀(20)
鼻	高	55.9	51.3
鼻	幅	38.6	33.7
鼻	長	49.9	45.6
鼻	深	17.1	15.4
高	長示數	89.1	89.5
高	幅示數	68.9	66.6
高	深示數	30.6	30.5
幅	深示數	44.4	46.1
内眦間幅	× 100	60.0	63.4
鼻高		(30例)	

第二十二表の如くである。

右のうち高幅示數 (Höhenbreitenindex) は一般東歐人に近く、西歐人、猶太人、アルメニア人、米土人 (アタパスカン)、エスキモー等は之より小、他の多くの人種は之より大である (マルチン参照)。今本示數を

過高鼻 (Hyperleptorrhinie) 五四・九—以下

高鼻 (Leptorrhinie) 五五・〇—六九・九

中鼻 (Mesorrhinie) 七〇・〇—八四・九

低鼻 (Chamaerhinie) 八五・〇—九九・九

過低鼻 (Hyperchamaerhinie) 一〇〇—以上

の五型に分類して頻度を求めると、日本人男性三一例中、高型一八、中型二三、低、過低型及び過高型なし。女性一七例中高型一三、中型三、低型一、過低型及び過高型なし。即ち日本人は寧ろ中鼻型より高鼻型に傾く。

幅深示數 (Breiten-tiefenindex) をホヴァルカ (O. Hovorka) により

隆起鼻 (vorspringende Nase) 四二—以下

中度隆起鼻 (mittelvorspringende Nase) 四二—五五

強度隆起鼻 (stark vorspringende Nase) 五五—以上

の三型に分つて頻度を求めると、日本人男性三一例中、隆起鼻二二、中度一七、強度二、女性一七例中、隆起鼻三、中度一四、強度なし、即ち大體に於て日本人外鼻は中度隆起鼻に屬してゐる。

以上の計數は材料數少なるために稍、確實性を缺くも、大體に於て日本人外鼻は中高、中隆起程度である。

六 體表面積

體表面積は個人差が多い。又多數材料に就て測量する事が困難である。爲に絶對數の平均値を擧げる事は意味が少い。たゞ比例値に至つては稍々確實なる數字を擧げることが出來よう。新谷氏は最近日本人成年男女各一〇人の體表面積を測量し、其結果に基いて次の係數を得た。

體重 (G) 及び身長 (H) より體表面積 (S) を求むる式 (但し E は誤差、以下同様)。

$$S = 5.4\sqrt{GH}, \quad E = \pm 1.25\%$$

體重より同く $S = 11.05G^{2/3}, \quad E = \pm 2.1\%$

身長より同く $S = 0.63H^2, \quad E = \pm 5.0\%$

成人の場合と同じく簡單に $S = 98H, \quad E = 2.5\%$ としても可い。但し S の單位は平方糎である。尙同氏によれば身體各部表面積の比例に就ては歐洲人との間に小差あるも、果して人種差であるか否かは不明である。

七 其他の重要諸計測

以上の他に重要計測は多數あつて、一々記す事が出來ないから、茲に一括して擧げる事にする。又一々文獻を示すのも煩はしいから、多くはマルチンの教科書所載の數字に依る事にする。特に著者名を記さぬものがそれである。

一 恥骨聯接比高 (relative Symphysenhöhe) $\frac{\text{恥骨聯接高} \times 100}{\text{身長}}$ 49.0, 48.4, 歐洲人より小。即ち下體が比較的短し。

二 比幹體長 [(比坐高) relative Stammlänge (Sitzhöhe)] $\frac{\text{坐高} \times 100}{\text{身長}}$ 54.0, 56.0 (鶴見・中楯) 40

250 (野村)、歐洲人より大。即ち幹體が比較的長し。

三 前軀幹壁比長 (relative Länge der vorderen Rumpfwand) $\frac{\text{前軀幹壁長} \times 100}{\text{身長}}$ 6 33.7 (勞働者)・34.2 (上層階級)、孰れも歐洲人より大。

四 比臍高 (relative Höhe des Nabels) $\frac{\text{臍高} \times 100}{\text{身長}}$ 6 58.82, 9 59.10 (秋田)・58.7 (頑丈人)・59.1 (中等人)、59.6 (纖細人)、黒人は之より高く、歐洲人とは大差なし。

五 比肩幅 (relative Schulterbreite) $\frac{\text{肩幅} \times 100}{\text{身長}}$ 6 23.5 (中等及び纖細人)・25.0 (頑丈人)・9 23.2 (中等及び纖細人)、25.3 (頑丈人)。世界人種中最大に近し。

六 骨盤比最大幅 (relative grösste Breite des Beckens) $\frac{\text{骨盤最大幅} \times 100}{\text{身長}}$ 6 16.3 (纖細人)・16.6 (小金井)・15.3 (ベルツ)・9 17.9 (纖細人)・17.9 (大澤)・17.4 (緒方)・17.8 (佐藤)。歐洲人より小、黒人より大である。

七 前上腸骨棘間比幅 (relative Breite zwischen den vorderen oberen Darmbeinstacheln) $\frac{\text{前上腸骨棘間幅} \times 100}{\text{身長}}$ 6 14.7 (小金井)・9 15.2 (佐藤)・15.7 (緒方)・16.1 (大澤)・16.1 (小金井)。歐洲人より大。

八 大轉子間比幅 (relative Breite zwischen den grossen Rollhügeln) $\frac{\text{大轉子間幅} \times 100}{\text{身長}}$ 6 18.6 (小金井)・9 19.8 (小金井)・19.1 (緒方)・19.8 (大澤)。歐洲人より小、黒人より大。

九 股幅示數 (Hüftbreitenindex) $\frac{\text{股幅間幅} \times 100}{\text{大轉子間幅}}$ 9 92.4 (緒方)。歐洲人より大。以上日本人骨盤は比較的



廣。

日本人の人體學

- 一〇 骨盤傾斜 (Beckenneigung) ϕ 43°, ϕ 44°, アインヌより小、歐洲人に近。
- 一一 比頸長 (relative Halslänge) $\frac{\text{頸長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 4.5 (織細人)、 ϕ 4.7 (織細人)、 ϕ 3.9 (勞働者)。
- 一二 全上肢比長 (relative ganze Armlänge) $\frac{\text{全上肢長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 43.2, 歐洲人、黑人、南洋人より小。東洋人中でも最小、即ち日本人は上肢比較的短。
- 一三 上膊比長 (relative Oberarmlänge) $\frac{\text{上膊長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 16.9 (中等人)、 ϕ 18.0 (勞働者)、 ϕ 16.7 (中等人)、 ϕ 18.3 (勞働者)。歐洲人より小。
- 一四 前膊比長 (relative Unterarmlänge) $\frac{\text{前膊長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 14.1 (學生)、 ϕ 14.2 (織細人)、 ϕ 14.5 (勞働者)、 ϕ 14.9 (學生)、 ϕ 14.8 (織細人)、 ϕ 15.1 (勞働者)。比較的小にして他の東洋人と異り、寧ろ歐洲人に近。
- 一五 比手長 (relative Handlänge) $\frac{\text{手長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 11.5 (中等人)、 ϕ 11.5 (中等人)。比較的大。
- 一六 手示數 (Handindex) $\frac{\text{手幅} \times 100}{\text{手長}}$ ϕ 43.5 (織細人)、 ϕ 43.8 (中等人)、 ϕ 45.0 (頭丈人)、 ϕ 42.8 (織細人)、 ϕ 44.1 (中等人)、 ϕ 46.4 (頭丈人)。歐洲人より小。即ち日本人手幅は比較的狭。
- 一七 比指極長 (relative Spannweite) $\frac{\text{指極長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 102.6, ϕ 100.5, 歐洲人、黑人及び他の東洋人より小。即ち日本人上肢長は他人種に比し甚だ小である。
- 一八 比脚長 [relative Beinlänge (Höhe der Iliospinale—4cm)] $\frac{\text{全脚長} \times 100}{\text{身長}}$ ϕ 48.5, ϕ 49.0, 世界人種中最小群に屬する。即ち脚短し。

一九 大腿比長 (relative Oberschenkelänge) $\frac{\text{大腿長}(55a) \times 100}{\text{身長}}$ ㊦ 22.5 (中等人)、23.3 (織細人)、23.7 (頭丈人)、23.2 (中等人)、24.2 (織細人)、23.2 (頭丈人)。歐洲人、黑人より小。

二〇 下腿比長 (relative Unterschenkelänge) $\frac{\text{下腿長} \times 100}{\text{身長}}$ ㊦ 21.9, 22.2.5, $\frac{\text{下腿長}(55a) \times 100}{\text{身長}}$ ㊦ 21.2 (中等人)、21.9 (織細人)、22.0 (頭丈人)、23.8 (中等人)、23.4 (織細人)、22.5 (頭丈人)。歐洲人、黑人より小。

二一 比足長 (relative Fusslänge) $\frac{\text{足長} \times 100}{\text{身長}}$ ㊦ 13.8 (中等人)、14.9 (織細人)、14.6 (頭丈人)、14.9 (中等人)、14.6 (織細人)、15.6 (頭丈人)。比較的小。

二二 比足幅 (relative Fussbreite) $\frac{\text{足幅} \times 100}{\text{身長}}$ ㊦ 5.5 (中等人)、5.7 (織細人)、6.0 (頭丈人)、5.9 (中等人)、5.9 (織細人)、6.1 (頭丈人)。他人種と大差なし。

なほ此他に種々の比較を擧げ得るが略す。其一部毛髮示數、眼裂幅の如きは次節中に觸れる事にする。

第二節 生體觀測 (Somatoskopie)

生體に就て尺度等の計測數を以て表現し難い解剖學的事項を取扱ふ。勿論屍體より得られる材料もある。又一部計測數に觸れる事もある。日本人成績について左に重要なものを擧げる。

一 皮色

皮膚の色調は從來人種標徴として最も高く評價されてゐるものの一つである。日本人の皮色が一般東洋人と同様黄色を帯びてゐる事は周知の事實であるが、日本人全般に涉つて學術的に詳しく調査したものは未だない。たゞ最近岡

本氏が九州地方人の皮色其他に就て統計的に觀察したものがあから之を引用しよう。其前に從來の一般説を代表するものとしてベルツの報告を紹介するが、之は其當否は別として、岡本氏の材料に對する一の批判をも含むのである。ベルツによると日本人の皮色は一般に明黃 (hellgelb) であつて、一方歐洲人に近き白色の方向に傾くものと、他方明褐色 (hellbraun) に傾くものとがある。之は階級、地方等に依つて異り、高貴のものは歐洲人も及ばぬ程白色のものがある。又一般に北方人は九州人等南方人より色が白く、九州人の皮色の濃いのは馬來系が多き爲なりと云ふ。

さて岡本氏によると、南北九州兵員二三四人乳房下皮色の分布は第二十三表の如き關係となる。即ち九州人は一般にルシヤンの第九乃至第十二に當る中等度皮色のものが最も多い。その頻度は北よりも南に大である。次位に來るものは北では淡なるもの、南では濃いものであり、一般に南は北より濃き方に傾いてゐることが明かである。沖繩は之よりも更に濃 (一三一・一七) の頻度多しと云ふ。

二 蒙古斑 (Mongolenfleck)

日本人小兒の臀部其他に見る皮膚の青斑所謂蒙古斑はベルツ以來有名となり、一般東洋人に殆ど毎常出現することが判明した。その後多數の學者が其研究に從事し、足立氏は其本態を究めると共に、白人小兒にも本斑の存在することを證し

第二十三表 九州人皮色 (合)

皮色別 (數字は皮色ルシヤン氏記號)	北九州 (福岡、佐賀、長崎)		南九州 (大分、熊鹿、宮崎、鹿兒島)	
	例數	%	例數	%
淡 (3-8)	207	20.5	31	2.3
中 (9-12)	690	68.5	1189	89.05
濃 (13-17)	110	10.9	115	8.6
合計	1007		1335	

た。これを手始めに、白人小兒の調査報告は續出し、シュラメーク (Schrammek) は黒人にも毎常發現することを報

第二十四表 蒙古斑の分布（初生児、小児に於ける出現率％）

バルマ	2.5	暹羅	89.0
ミラノ	1.1	瓜哇	99.0
シチリー	5.0	甸緬	45.8 (緬甸人)
カリアリ	6.22-8.24		21.6 (ヒンズー教徒)
サルヂニア	2.4		24.3 (回教徒)
巴里	1.0		25.0 (支那人)
ブダペスト	2.0	布哇	100.0
ブルガリア	0.57	サモア	100.0
獨逸	0.17	スマトラ	100.0
伯林	2.0	ホルネオ	100.0
日本	90.0-100.0 (足立)	馬來半島	100.0
	100.0 (ベルツ)	ホリピア	86.67 (米土人)
	100.0 (藤澤)		76.0 (米土人と白人との混血兒)
	89.0 (ヘミン Chemin)		16.67 (白人)
	19.0 (3-8歳, グリム Grimm)	チリ	48.0
朝鮮	90.0-100.0	ブラザル	65.0 (黒人)
支那	97.0-98.0		52.0 (黑白混血兒)
比律賓	100.0		1.5 (白人)
安南	80.0	ウルグァイ	7.5
廣東	100.0	黒人	100.0

(其他伊太利 1 例、巴里 14 例、ミュンヘン 1 例、チュニス 9 例、タヒチ、マールシャル、ニューゼーランド、マダガスカル、グリーンランド、アラスカに甚だ多數との報告あり。)

告した。又、米土人、南洋諸島人に多いことも判明した。師岡氏は最近日本人に於ける本青斑の詳細なる研究を遂げたが同氏引用のバーラウイ (A. E. Balhawy) の蒐集を表示すると、世界各人種に於ける本特質の出現頻度は第二十四表の如き關係となる。

師岡氏の日本人小児、初生児より生後第七年に至る四七〇児の統計に依れば、本青斑の出現頻度七七・九％（合七八・二％、早七七・五％）である。本斑出現の最も早き例は胎生第七月の一例であり、

第二十五表 日本人虹彩の色

虹彩色型 (但しマルチン 氏眼色表記號)	南九州 ●大分、宮崎、鹿兒島		北九州 (福岡、長崎、佐賀)		富山縣		石川縣	
	例數	%	例數	%	例數	%	例數	%
II (黒 褐)	75	5.62	57	5.66	8	0.72	883	59.5
III (濃 褐)	506	37.90	210	20.85	1069	98.44		
IV (褐)	623	46.61	539	53.49			? 520	35.0
IV (-) (淡褐)	69	5.17	39	3.87				
VI (淡褐帶青)	61	4.56	112	11.12	9	0.83	81	5.4
合 計	1335 (?)		1007		1086		1484	

日本人の人類學

本斑色素細胞出現の最初は同第三月である。之を白人に比べると一—二個月早く、日本人は本細胞生後第二年に極盛に達するが、白人は生後半年を最盛時とし、小兒後期迄残存する例は稀有である。然るに日本人では成人に於ても殆ど常にその幾分を残すと云ふ。以上を總括せば、日本人蒙古斑は頻度並に持續期間白人よりも著しく大である。

三 虹彩の色

虹彩の色彩は皮膚、毛髪の色と關係が深く、一般に皮色の淡なるものは、虹彩も毛髪も色淡なるを常とする。日本人の虹彩は一般東洋人と共に歐洲人のそれより色濃き事は周知の事實である。日本人虹彩の色を統計的に調査したものではベルツが古い。彼によると日本人虹彩一〇〇例中九五は暗く、五例は明るしと云ふ。後中村氏の富山縣人一〇八六六、岡本氏の石川縣人一四八四人、前記岡本氏の九州人二三四二人(孰れも兵員)が重要である。これらの成績を表示せば第二十五表の如くなる。

之に依れば日本人虹彩の色は褐色の頻度最も多く、黒褐及び帶青淡褐色は甚だ少い。南北九州に於ては、濃褐色の頻度稍、前者に大なるも黒褐色の頻度は殆ど差異がない。富山縣人及び石川縣人との比較は稍、不明である。岡



四 毛 髮

州四縣では $+0.234 \pm 0.0255$, 沖繩では $+0.666 \pm 0.0399$ にて、皮色濃き程虹彩の色も濃き事を證する。

第二十六表 虹彩の色の比較 (%)

人 種	明 (青)	中 等 (灰或混色)	暗 (褐)	
諾威	97.2	0	2.7	
英國	53.0	—	20.0	
スコットランド	44.7	32.3	22.5	
獨逸 (學童)	39.4	33.1	27.1	
露西亞 合	22.0	44.0	33.0	
(10-18歲) 女	27.0	38.9	32.0	
猶太人 (在米) {	合	24.1	17.5	58.4
	女	19.6	16.9	63.5
白耳義 (學童)	17.6	21.8	60.5	
希臘 (")	17.2	17.9	64.9	
土耳其 (")	14.1	18.6	67.3	
セルビア 合	14.0	15.0	71.0	
(10-18歲) 女	14.0	19.0	66.0	
ブルガリヤ 合	13.0	24.0	62.0	
(") 女	14.0	9.0	74.0	
日本人 (岡本、中村)	0	0	100.0	
(コリニョン)	0.7	9.3	91.0	
キルギス (中央群)	0	5.0	95.0	
ダランチ及びヂェーガン	0	7.5	92.5	

本氏によれば沖繩縣人は過半数濃褐色にして、褐色はその半数に過ぎずと云ふ。なほ日本人に就てはコリニョン (R. Collignon) の報告があり、之によれば、以上二氏の見たる全例は褐色に相當し、同氏の成績では九一%、他に灰色

九・三%、青色〇・七%ありと云ふ。

之を他人種の成績に比較すれば第二十六表の如くなる。即ち日本人は他の東洋人と共に暗色大部分を占め、明色は殆どない。此點に於て北歐人と對蹠的位置にあり、地中海人、東歐人、猶太人等はその中間に来る。

なほ岡本氏によれば左右不同色のもの一〇〇七名中七名、鏽斑を有するもの八五名ありと云ふ。

虹彩の色と皮色との間の交聯係數 (Correlationscoefficient) は南九

第二十七表 日本人頭髪の色

日本人の人類學

岡本(大分、宮崎、熊本、鹿兒島)			コリニョン		渡邊		
毛色(數字はフイッシャー氏毛色表の記號)	例數	%	毛色(同前)	%	毛色	例數	%
黒褐色(4)	90	6.74	明色(9-20)	0	暗褐色	21	23.9
眞黒色(27)	1241	92.95	暗色(4-8) { 褐色 黒色	86.1 13.7	黒色	63	71.6
赤褐色(29)	4	0.28	赤色(1-3)	1.15	褐色	4	4.5
合計	1335					88	

毛髪も亦人種標徴として重要なものである。色彩、形及び性狀、配列、組織、分量、硬軟度等に就て記載がある。

一 毛髪の色 日本人毛髪の色に關してはベルツの記載が古い。彼によると日本人頭髪は黒色なるも乾燥せるものにては漆黒なるは却つて稀であり、又下層民の手入少き頭髪は赤褐色に傾く事が多い。又金髪は日本人にありては寧ろ全身色素脱落症の如き異常に屬する。要するに日本人頭髪は黒褐色或は暗褐色 (schwarzbraun, dunkelbraun) と記載するを適當とすと云ふ。

其後日本人全般に涉つて學術的調査を遂げたものを聞かない。渡邊氏は東京學生八八人に就て、又最近前記岡本氏は南九州人頭髪の色を統計的に觀察した。材料は不明であるがコリニョンの報告もある。これらの成績を表示すると第二十七表の如くなる。之に依ると岡本氏及び渡邊氏の成績は眞黒(前者に依れば黒青)最も多くして黒褐比較的少く、コリニョンに依れば暗褐の頻度最大にて暗黒色は少い。之等の差は何の原因に基くかは不明であるが、孰れもフイッシャーの同一毛色表を用ひてゐるから、恐らく主觀的原因でなくして、材料の數、性、地方等による差異であらう。兎に角以上により、日本人頭髪の色は暗色が殆ど全部を占め、赤褐乃至赤色は稀有なることを



第二十八表 頭髮の色の比較(%)

人種	明	暗		1—3
	9—20 (金髪)	4—8 (褐)	(黒)	(赤)
瑞典	69.4	25.1	2.2	3.3
丁抹 (學童) 合	83.2	14.2		2.6
♀	80.3	16.9		2.8
諸威	74.4	25.6		0
スコットランド (學童)	68.2	26.4		5.3
英國 (サレー、學童) 合	49.3	47.9		2.9
♀	45.8	52.5		1.8
大露	45.0	43.6	16.3	3.2
小露	36.1	42.4	18.9	3.2
ブルガリア (6—25歳)	29.3	70.6		0.08
希臘 (同上)	28.3	71.7		?
土耳其 (同上)	25.0	75.0		?
猶太人 (小露) 合	17.7	78.3		3.9
♀	17.0	78.4		3.0
セルビア 合	18.0	84.0		0
アルメニア	4.8	30.7	59.1	4.8
ルーマニア	2.7	95.6		1.7
ジブシー	0.6	94.0		0
日本人 (コリ=ョン)	0	86.1	13.7	1.15
(渡邊)	0	23.9	71.6	4.5(?)
(岡本)	0	6.74	92.95	0.28

知ることが出来る。他人種との比較は第二十八表の如し。即ち北歐人は日本人と對蹠的位置に居り、地中海人、蒙古人等は兩者の中間に、東歐人は却つて日本人に近い。朝鮮人、支那人等が此點日本人と大差ないのは勿論である。日本人髻の色はベルツによれば黒色多く、暗赤色も稀ならずと云ふ。

二 毛髮の形狀 長さ、太さ、

横斷面形、屈曲の度等も亦人種的に差異がある。日本人頭髮は往々にして甚だ長いのがある。坪井氏などの調べた、伊豆大島婦人の長髪は殊に有名である。又古來婦人の長髪を歡ぶ風習があつたが、未だ日本全般に涉り統計的に長髪の調査のあつたことを知らない。之は一面手入によつて長さを増し得るものであるが、常識的に考へて太く直なるものは長さも大である筈である。この點黒人の如き短鬢毛は勿論、歐洲人等に比しても、日本人の頭髮は長いと云ひ得

るであらう。

日本人の毛髪の太さは一般的に調査されてゐない。マルチンの教科書所載の日本人頭髪の太さは 0.09-0.14 (耗) であるが、之は最大幅を採つた數字である。久保氏に依れば日本人頭髪は平均長徑 ϕ 0.1343, ψ 0.1237, 同短徑 ϕ 0.0924, ψ 0.0879 であるから、之より $\frac{\text{短徑} + \text{長徑}}{2}$ を求めると ϕ 0.1183, ψ 0.1058 となる。又フレデリキ (J. Frederic) によれば平均 0.08340 である。之等の數字は黑人、歐洲人等よりは大である。

日本人頭髪横断面は圓形に近い橢圓形が多い。之も全国的に調査された譯ではなすが、横断面示數 (Hairindex, $\frac{\text{短徑} \times 100}{\text{長徑}}$) は、ベルツによれば 78-92, フレデリキは 87.34, 久保氏は ϕ 68.80, ψ 71.06 である。之を他人種と比較するに第二十九表の如くなる。

第二十九表 頭髪横断面示數の比較

黑人 (ガラ)	50.7
〃 (クルー)	55.4
アラビヤ人	59.8
露人 (モスクワ)	61.5-71.6
〃 (クルガン)	61.0-73.3
タマスニア	68.0
アイヌ	69.5
ヤクト	80.2
古代ペルー人	84.1
米土人 (バラグアイ)	86.4
(以上マルチン)	
スダン黑人	44.37-78.81
アビシニア人	60.86
エルザス人	47.28-55.53
バーデン人	73.96
赤露人	50.92
印度人	70.08-92.87
アルメニア人	82.06
タミール	66.93
日本人	83.40
支那人	63.53-92.87
(以上フレデリキ)	

なほ久保氏によれば支那人 ϕ 74.00, 朝鮮人 ϕ 72.05, ψ 72.78, 堀井、田幡兩氏に依ればアイヌ ϕ 71.3 \pm 1.62, ψ 68.8 \pm 1.05, 中野氏によれば生蕃 (タイヤル) ϕ 80.279 である。

之を要するに一人種間にて個人差に基く移動比較的大であるが、大體に於て黒人は本示數小、歐洲人は中間に、東



第三十表 頭髮性狀比較表

人種	滑狀毛		波狀毛		捲狀毛	
	例數	%	例數	%	例數	%
朝鮮人 (久保)	49	98.0	1	2.0	0	
支那人 (同)	47	94.0	2	4.0	1 (輕度)	2.0
日本人 (渡邊)	81	92.0	(7)	(8.0)	0	
アイヌ						
(Montandon)	合 1	3.3	28	93.3	1	3.3
	♀10	20.0	39	78.0	1	2.0
(堀井、田幡)	5		14		0	

日本人生體の解剖

洋人は一般に大なるを見る。

日本人の髻の横斷面示數はベルツによれば七六一九六、久保氏によれば平均七二・二四である。之は歐洲人(ベルツ、四〇一七〇)及びアイヌ(堀井、田幡、六三・六)より著しく大、支那人(久保、七二・三五)と大差がない。

三 日本人毛髮の性狀

に就ても、一般的統計研究を缺いてゐる。ベルツに従へば日本人頭髮は滑狀 (sochlicht) であつて彎狀毛 (locking) は稀である。黑人同様の眞の毳狀毛 (kraus) は1:10

〇〇〇人に一人の程度なりと云ふ。其後渡邊氏は前記材料により、滑狀八一(九二・〇%)、捲毛七(八・〇%)を得た。但し此捲毛の程度不明なるも恐らくマルチンの波狀毛に相當するものと思はれる。即ち日本人は一般東洋人と共に直毛に傾く傾向が多い。而して黑人には捲狀毛、歐洲人にはその中間の波狀毛が多い事は周知の事實である。周圍民族との比較は第三十表の如くなる。

ベルツに依れば日本人髻の性狀も亦滑狀である。

日本人毛髮の強韌度は渡邊氏に依り次の如く分類された。

硬 四一(四八・九%) 中等度 一一(一二・五%) 軟 三四(三八・六%)

之を周圍民族の夫と比較するに、久保氏報告の朝鮮人は硬三六%、中等度五〇%、軟一四%、同じく支那人は、硬三四%、中等度六〇%、軟六%であつて、

日本人頭髮は硬及び軟に屬するものが比較的多く、中等度は少い。但し此差は調査者を異にする爲であるかも知れない。

四 毛髮の分量 日本人毛髮の分量は、ヒルゲンドルフ (F. Hilgendorf) が二男性の頭髮數一平方糎に就き二八六及び二五二を算し、ベルツは四男性に就き同様三一七、三二〇、二九八及び二八〇を數へた報告が古い。ベルツに依ればこれ等の數字は獨逸人に於けるより僅に多しと云ふ。最近五島氏は福岡地方人に就て各部頭髮平均一平方糎に就き一三〇—一九九本を數へた。久保氏は朝鮮人男性にて同様一二八・〇—一九二・二本、同女性同様九五・六一—七九・六本、支那人男性同様一三五—一九四を得た。之は前記ベルツの日本人、獨逸人の數字に比して著しく小であるが五島氏のに比しては大差がない。但しいづれも例數少であるから、之等の比較は遽には信じ難い。但し之を別の方面より觀察するに、日本人頭髮の密度は、渡邊氏によれば密なるもの七二(八一・八%)、中等度一一(一一・五%)、薄きもの五(五・七%)であり、久保氏の朝鮮人では密五二%、中三八%、薄一〇%であるから、後者に比して日本人頭髮の分量多き事は、一般的に確實であると云へるかも知れない。

五 全身に於ける繼續被毛 の分布は、歐洲人、濠洲人、アイヌ等は甚だ廣く、黒人は狭い。東洋人は兩者の中間に在り、一般に生毛區域乏しい傾向がある。日本人も同様である。

六 生毛配列 生毛配列は毳毛の分明なる第六—七個月の胎兒乃至初生兒に於て觀察される。但し頭部は例外である。日本人全身毛流を觀察したのは古くはベルツがあるが、最近の山浦氏の報告は最も詳細である。その結果日本人一二胎兒に於て、歐米人と異なる點は、(一)顛頂毛渦は日本人は左旋、白人は右旋多し。(二)前額毛渦は白人より

稀、して白人の如き散渦なくいづれも集渦なり。(三) 耳前旋毛片側二渦は白人に多く(一二・五%)、日本人に少し(二・四)。反之、同無渦は白人(二二・七%)より稍、多し(三一・一%)。(四) 軀幹側壁分散線の乳頭内側通過例は日本人より白人に多し。(五) 背部集渦は日本人八三體中五二體、白人三三體中一三體なり。以上の差は、然しながら材料數に於て稍、不完全の點があるので、山浦氏は之を人種差と認めることに躊躇してゐる。尙顛頂毛環に就ては近時加藤氏の詳細なる研究がある。

七 毛髮の組織 之は組織學上の事に屬し、有髓、無髓等の問題があるが、省略する。日本人と歐洲人との毛髓の比較に就ては齋藤氏の報告がある。此方面では又、フリッチュ(G. Fritch)等に依る頭皮の組織學的研索の結果、黒人の如き捲毛は頭皮膚内に於ても彎曲し、支那人、日本人の如き直毛に近きものは、同部内に於ても直なることが判明した。尙毛髮の延長性、被振性に就ては、山口氏の測定がある。

以上日本人毛髮に關しては主として頭髮の觀察を述べるに終つたが、爾餘の體毛に就ては明確の人種差の認められたいものが少いので之を省略する。但し三上氏によれば日本人陰毛五五三人の統計の結果は他人種と差異ありと云ふ。

五 頭部一般形

頭部の一般形に就ては前節生體計測部並に後節頭蓋の部の記述に譲る。

六 眼 部

一 眉毛 ベルツは日本人眉毛は大多數に於て強く發育し、甚だ廣く、歐洲人の夫に比し稍、上方に存し、色は黒色なりと云ふ。眉毛の位置の高き事は支那人(Y. Hyun)、朝鮮人(久保)も同様である。久保氏によると朝鮮人は

男女共に眉毛方向外上方に擧がれるもの過半数を占め、外上方の下れるもの（八字眉）は稀なりと云ふ。日本人では未だ統計數を知らぬが、此點で恐らく同様の關係があるだらうと思はれる。

二 眼 球

日本人眼球の位置が歐洲人の夫に比して、前方に突出せることは周知の事實である。足立氏は之に就て詳細なる局處解剖學的研究を遂げた。その結果によると眼球の大きさは歐洲人と大差なきも、眼窠容積が小なる爲である。但し眼窠の深さは淺くない。即ち視神經は比較的長い。又同氏によると、歐洲人眼球は外壁の外骨質の防禦あるも、日本人は鼻根部以外に防禦がない。甚しいのになると鼻根部の防禦線を超えて前方に突出してゐるのがあ

る。又内外縁を結ぶ直線は眼球赤道の後方を通過するものさへありと云ふ。尙日本人眼球突出度に就ては廣田氏の研究がある。

三 眼 瞼 日本人上眼瞼の形狀に就ては、歐洲人に比して二重眼瞼の少いこと、蒙古皺襞の存在等を擧げる。

二重眼瞼の日本人に少い事に就てはシーボルト (Ph. Fr. v. Siebold) ベルツ以來の記載がある。又足立氏は組織學的に日本人眼瞼を検した。これらの研究の結果日本人の所謂一重眼瞼は其實上眼瞼を蔽ふ皮襞の低くして眞の眼瞼縁を隠せるもの、所謂二重眼瞼は該皮襞の高くして、眞の眼瞼縁より開離せるものであることが判明した。又ベルツ、大西、石川の諸氏は日本人

第三十一表 日本人上眼瞼

上 眼 瞼	大 西		ベルツ %	石 川	
	例數(人)	%		例數(側)	%
純ひと皮目	241	24.1	55	合 1412	72.1
				♀ 1246	62.3
				合+♀ 2688	67.2
半ひと皮目	192	19.2	40	合 558	27.9
半ふた皮目	423	42.3		♀ 754	37.7
純ふた皮目	144	14.4	5	合+♀ 1312	32.8
合 計	1000			4000	